

新常用漢字は耳で学ぶ

千葉大学教育学部

伊坂 淳一

一 改定常用漢字表と 中学校国語教育の課題

改定常用漢字表が文化審議会から文部科学省に答申されて、年末までには内閣告示にいたる予定である。一九六字の追加、五字の削除、七語の熟字訓の追加があり、音訓に関しても、変更一字、追加二八字、削除三字という枠はこれではほぼ確定した。しかし新学習指導要領での、つまりは小中学校教育での扱いについてはいまだはっきりした道筋は見えてこない。

問題点を整理すると、次の三点になる。①②は規定上の問題、③は教育の実際を含んだ問題である。

① 中学校学習指導要領国語科の「(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)の「ウ漢字」の「漢字の読み」に関する指導事項である(ア)、

・ 第一学年：(小学校で学習した漢字以外の)常用漢字のうち二五〇字程度から三〇〇字程度までの漢字を読むこと。

・ 第二学年：第一学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち三〇〇字程度から三五〇字程度までの漢字を読むこと。

・ 第三学年：第二学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。

に変更はないのか。つまり仮に現行のままであるとすると、第三学年での学習に数的な負担が集中することになる。また、追加された漢字の学年間での配当に制限が付くのかも不明である。

② 追加になった漢字、熟字訓、音訓は、すべて中学校段階での学習対象になるのか。つまり、いわゆる高校配当の漢字、熟字訓、音訓はないのか、ということ

あり、熟字訓と音訓に限ってみると、現行の規準とのバランスから見て、いくつかは高校配当でもよい難度のものがある。

③ 中学校学習指導要領の規定はそれとして、実際には漢字の「読み」だけでなく、ある程度の「書き」も合わせて指導が行われているという現実がある。追加された漢字は、言われているとおり読めるだけでよいのか、パソコン上での漢字変換ができればよいのかなど、漢字の何を習得させるのかについて明らかではない。

「しんじょう」の点の数、「餌」「餅」の「しよくへん」の形など、よく話題にされる事柄とは別に、中学校段階での教育にとってはこのようなことが問題となる。今後、具体的に妥当な方針が出されることを期待したい。

二 新常用漢字の特徴と 学習上での扱い方の視点

前項のような問題があることをふまえてつても、新常用漢字(改定常用漢字表で追加された漢字)一九六字の全音訓を、中学校段階で読めるようにするためにはどう扱ったらよいかということについて、一つの視点を提案したい。ここでは新熟字訓や既存の常用漢字の追加音訓についてはふれないこととする。新常用漢字には次のような特徴がある。

① 動植物名や日常生活の事物などを表す漢字が多い。

② その漢字を音読みにする場合の熟語のバリエーションが少ない漢字が多い。しかも、比較的日常生活で頻用される熟語が多い。

③ その漢字を用いた熟語が使われる分野や場面が狭いものが多い。また、慣用句やことわざの中で使われるものが多い。

以上のことから、新常用漢字及びそれを含んだ熟語を意味分野ごとに分類し、さらに平均的な中学校三年生を想定して、すでに「単語としては」頭に入っているのではないかと推定される、その程度によって分けてみたのが、一〇〇ページ表である。この表については、今後なにかしらの調査によって実証性のあるものにしたいと考えているので、現時点ではあくまで本稿の筆者による推定である。これを語彙認知度と仮称しておく。

「腫れる・腫らす」のような同根の語は一方で代表させたが、一応全ての音訓を網羅した。「軽蔑(＝蔑む)」のように、音訓を一目で言いかえられるものは、できるだけ集約してまとめた。そして、今回は基本的に音訓の掲載を一回としたが、重複掲載することによって、新常用漢字を使った熟語表としてさらに充実させていくことが可能であろう。

このような扱い方の視点をもとにして、どのような学習方法を構想していくかが改めて課題になるだろうが、基本的に標題にあるように「耳で学ぶ」とした理由は、次のような語彙認知度の高さがあるからである。

「日常生活」「食べ物」「人物」「身体・健康」「生物・自然」「言語・文化」には、具体的に語彙認知度の高い語が多い。「身体・健康」には身体部位名など一部に非日常的な語が出てくるが、意味が具体的なので、イメージはしやすいだろう。

「スポーツ」「心情・感情・心理・思考」には、慣用句及び音訓読み替えがかなり入っているが、耳に慣れればそう難しいことばではないだろう。

「人間関係のドラマ」「刑事ドラマ」は、テレビのドラマ番組を念頭に置いている。頻繁に出てくる語なので漢字の難度、語彙の難解度に比して、すでに耳から入っている語は少なくないはずである。

「慣用句・ことわざ・定型的な表現」も同様だろう。「形容する語」「動きを表す語」についても、漢字の難度の割には、語彙認知度が高いと思われるものが多い。これらは、読めるようにするだけなら、それほど恐れる必要はない。

「同訓異字」は既存の常用漢字との関係で、

前後の文脈によって書き分けを求められる漢字である。漢字による表現力が向上したとも、厄介なきまりが増えただけだとも、賛否両論あるが、読めればいいというのなら、それほど負担にはならない。

「代用字との関係」については後述する。「県名・国名・地域名」は、ことばとしての理解以前に、どこにどの県があるかという常識の問題がまずあるだろう。漢字と同時に地図上での位置や特色を確かめておきたい。

「その他」には、結果として、漢字の難度が高く、語彙認知度の低い、しかも意味が抽象的で捉えにくい熟語が集まってしまった。しかし、数は多くないので、簡単な文脈の中で意味をpushしながら読めるようにしたい。

なお、「弥」は「弥生時代」「弥生土器」のような熟字訓の中でしか扱えないが、社会科学の中で学習していることが多い。

このように、新常用漢字については、漢字そのものの難しさに比して、ことばとしての難度はそう高くないと考えられる。日常生活ですでに知っていると考えられる語、特に耳から入って定着している語が少なくないのである。また、文脈や場面を与えれば、聞いて理解できる語も多いといえる。今後の学習にあたっては、「耳で学ぶ」ことを優先していくことが有効であると考える所以である。

意味分野等	高 ←————— 語彙認知度(推定) —————→ 低					
日常生活	挨拶 雑巾がけ 椅子 鍋 箸 鉛筆の芯 びんの蓋	便箋 拭きそうじ 枕 釜 臼 竹製の籠 着物の裾	宛先 風呂 シャツの袖 鎌 瓦屋根 ドアの鍵 釣りの餌	玩具 配膳 ピアノの鍵盤 将棋の持ち駒		
食べ物	麺類 煎餅 串焼き	丼物 煎りゴマ	天井・牛丼 餅米	焼酎 鹿の子まんじゅう		
人物	俺 誰 親戚			僧侶 旦那	曾祖父	
身体・健康	膝 眉毛 爪先 内股	肘 脇腹 腎臓 捻挫	頬 爪 唾液(=唾)	頭蓋骨 胃潰瘍 腫瘍	股関節 顎関節(=顎の関節) 臼歯 瞳孔(=瞳) 咽喉(=喉の奥のあたり) 脳梗塞 食餌療法 瘦身(=痩せる)	
生物・自然	哺乳類 鹿 亀 梨 虹	脊椎動物 虎 蜜蜂 藤の花 洞窟	熊 鶴 柿 嵐	葛の木 象牙 堆積岩		
言語・文化	歌舞伎 語彙 比喩			浄瑠璃 楷書 俳諧	古利 藍染め	
スポーツ	柵越えホームラン	日頃の成果		僅差(=僅かな差)の勝利	辣腕 牙城を崩す 采配を振るう 敵を一蹴する(=蹴散らす)	
心情・感情・ 心理・思考	肝を潰す 開いた口が塞がらない 眉間にしわを寄せる	尻込みする 羞恥心		謙遜する 涙腺が弱い 萎縮する(=気持ちが悪える) 嗅覚(=においを嗅ぎつける力)が鋭い	危惧する 覚醒する 詮索する 諦観する(=諦める) 捕捉する(=捉える) 畏怖する(=畏れる) 不安を払拭する(=拭い去る) 戦慄を覚える	
人間関係の ドラマ	軽蔑(=蔑む) 嫉妬(=妬む) 断崖絶壁(=崖っぷち)	挫折 一寸先は闇	葛藤	親睦 嘲笑(=嘲り笑う) 牙をむく 関係に亀裂が入る 運命に翻弄される(=弄ばれる)	怨念 奈落の底 羨望のまなざし(=羨ましい気持ち) 憧憬的(=憧れる) 罵倒する(=罵る)	
刑事ドラマ	賄賂 名誉毀損 拳銃 籠城(=立て籠もる) 死骸 賭博(=賭け事)	失踪 裁判沙汰 狙撃(=狙い撃つ) 血痕 溺死(=溺れ死ぬ) 冥福	拉致 謎解き	怨恨 勾留 禁錮 事件の勃発 訃報	悪の領袖 事実の隠蔽	
慣用句・ ことわざ・ 定型な表現	桁違い 拳を突き上げる 故郷に錦を飾る 呪文を唱える(=呪いの文句) 一年の計は元旦にあり	餌食になる		変貌を遂げる 間隙(=隙間)を突く 虎穴に入らずんば虎児を得ず 富士山麓(=山の麓)おうむ鳴く	焦眉の急 冥利に尽きる 塞翁が馬 未曾有の大事件 出藍の誉れ	

形容する語	曖昧な 憂鬱な 完璧な 滑稽な 緻密な 明瞭な 爽快な(=爽やかな) 貪欲な(=貪るような)	旺盛な 苛酷な 傲慢な 斬新な	真摯な 凄惨な 肥沃な
動きを表す語	参詣する(=詣でる) 頂戴する 整頓する	貼付する(=貼り付ける) 剥奪する(=剥ぎ取る)	瓦解する 叱責する(=叱る) 補填する 破綻する(=綻びる) 湧出する(=湧き出る) 遡及する(=遡って影響を及ぼす)
同訓異字	唄(：歌) 痕(：後・跡) 乞う(：請う) 貼る(：張る) 宛てる(：当てる・充てる) 匂う(：臭う) 畏れる(：恐れる) 斬る(：切る) 捉える(：捕らえる) 湧く(：沸く) 腫れる(：晴れる) 妖しい(：怪しい)		
代用字との関係	臆説・臆測(：憶説・憶測) 肝腎(：肝心)		
熟字訓	弥生		
県名・国名 地域名	茨城 愛媛 岡山 静岡 福岡 熊本 埼玉 栃木 奈良 山梨 大阪 岐阜 阪神・京阪 近畿 韓国		
その他 (難解語)	斑点	必須 蜂起	才媛 錦秋 鉅側 利那 恣意 進捗 汜濫 汎用 陶冶 淫乱(=淫らな行為) 妖艶(=雰囲気妖しい、艶がある)

三 被代用字の復活について

「代用字との関係」であるが、以下のような不確定要素がある。

現行の常用漢字表には「臆」が含まれていないが、その前身の当用漢字表の時代に「臆説・臆測」に対する「憶説・憶測」という代替表記が提案され、すでに一般にも定着していると考えられる。今後は「憶説・憶測」と「臆説・臆測」とが並立していくことになるのである。か。「盲信・盲想」と「妄信・妄想」の関係と同じようなことになる。しかし、「臆↓憶」の代用字から類推によって派生し、同じように定着していると思われる「憶病」はどうなるか、予測できない。

また、「潰」「汎」が追加されたことで、かつて代用字が提案された「壊滅・決壊・全壊・崩壊」「広範」の熟語はすでにかんりの程度に定着していると考えられるが、「潰滅」「広汎」など、時折目にするもののある表記も認められるようになるのか、不確定である。このような事情を見ずえていく必要がある。

いさか じゅんいち 千葉大学教授。言語事項の既成概念、伝統的な学習内容・学習方法を、あえて国語学プロパーの立場から変革することを目指している。著書に『ここから始まる日本語学』(ひつじ書房)など。